

### 梅毒患者急増 道内も

#### 昨年最多599人 今年も高水準

感染症の一つ、梅毒の患者が急増し、昨年は全国で1万3226人と過去最多となった。梅毒患者は近年になって急増しているため、診察経験の少ない医師もおり、日本性感染症学会は見逃しのないよう「梅毒診療ガイド」を作成した。注射1本で済む新たな治療も始まっている。

#### 出会い系アプリが影響か

### 服薬に加え新たに注射治療

梅毒は、2009年に感染症法に基づいて全数把握対象疾患の5類感染症となった。北海道感染症情報センターによると、道内の感染者数は昨年、599人と現行の集計方式となった2006年以降で最多となった。今年も9月3日までに479人と前年を大きく上回る勢いで推移している。道内の感染者数は15年までは1桁台から60人台だったが、16年以降100人を突破。昨年は前年の3.5倍となった。

厚生労働省によると、全国の患者は男性が20〜50代が多く、女性は20代が突出して多い。このため急増の背景には、近年流行している出会い系のマッチングアプリが影響している、との見方がある。

これまで治療はペニシリン系の抗生物質の飲み薬「アモキシシリン」を1日3回、進行過程が第1期、第2期の早期なら4週間の服用を基本とする。ただ、内服期間が長いため途中で治療をやめる人もいて、感染を拡大する要因との指摘も出ている。

そうした中、昨年1月に発売されたのが持続性ペニシリン製剤の注射「ステルイス」だ。坂泌尿器科(札幌市西区)診療支援部長の笹尾拓己医師によると、第1期、第2期の場合1回注射する。感染から1年以上経過している場合は、1週間に1回を計3回注射する。

ステルイスは筋肉注射で、体内に徐々に吸収される特性がある。粘性が高く、注射針内で液が詰まってしまふ恐れがあるため、針は通常より太いものを使う。さらに注射を刺している間は1分かけて、ゆっくりした速度で薬剤を体内に注入するため痛みを感じる。痛みは数日続くこともある。

注射でアナフィラキシーショックや腎機能障害といった副作用が出る可能性があり、事前に患者のアレルギ歴を調査。注射後は患者に一定時間、安静にしていもらう。当日は発熱や悪寒などの症状が出るほか、1週間後に湿疹などのアレルギー反応が出ることも。ペニシリンアレルギーや腎疾患、出血しやすい人は受けられないことがある。

4週間後に血液検査を受け、完治しているかどうか調べる。その後医師と相談の上、おおむね1カ月ごとに半年間、可能なら1年間、検査を受けることが推奨されている。

笹尾医師は「特に仕事をしたいと昼に薬を飲み忘れることが多く、注射の方が確実。ただ、注射もすぐ治る訳ではなく、治癒したか効果を判定するため定期的な検査が必要。勝手に判断して検査を受けないと、実は治っていないかたというところもある」と指摘する。

梅毒は主に泌尿器科と婦人科で治療を行う。ステルイスは医療機関の大小を問わず、取り扱っていないところもある。治療を希望する際は事前に問い合わせることが望ましい。費用は1回2700円(3割負担)で、薬と比べ若干高い。

(編集委員 荻野貴生)

3回、進行過程が第1期、第2期の早期なら4週間の服用を基本とする。ただ、内服期間が長いため途中で治療をやめる人もいて、感染を拡大する要因との指摘も出ている。



通常より太いものを使う。さらに注射を刺している間は1分かけて、ゆっくりした速度で薬剤を体内に注入するため痛みを感じる。痛みは数日続くこともある。

注射でアナフィラキシーショックや腎機能障害といった副作用が出る可能性があり、事前に患者のアレルギ歴を調査。注射後は患者に一定時間、安静にしていもらう。当日は発熱や悪寒などの症状が出るほか、1週間後に湿疹などのアレルギー反応が出ることも。

ペニシリンアレルギーや腎疾患、出血しやすい人は受けられないことがある。4週間後に血液検査を受け、完治しているかどうか調べる。その後医師と相談の上、おおむね1カ月ごとに半年間、可能なら1年間、検査を受けることが推奨されている。

笹尾医師は「特に仕事をしたいと昼に薬を飲み忘れることが多く、注射の方が確実。ただ、注射もすぐ治る訳ではなく、治癒したか効果を判定するため定期的な検査が必要。勝手に判断して検査を受けないと、実は治っていないかたというところもある」と指摘する。

梅毒は主に泌尿器科と婦人科で治療を行う。ステルイスは医療機関の大小を問わず、取り扱っていないところもある。治療を希望する際は事前に問い合わせることが望ましい。費用は1回2700円(3割負担)で、薬と比べ若干高い。

(編集委員 荻野貴生)

#### 症状4段階

厚生労働省によると、梅毒はトレポネーマという病原体によって引き起こされる。性交のほか、口、性器などの粘膜や皮膚から感染する。

感染から10〜90日程度の潜伏期間を経て発症する第1期には性器や肛門、口(3〜3.3cm)の大きさのものができる。股の付け根が腫れる。

第2期(3カ月〜)は、手のひら、足の裏、体に発疹(赤い斑点)が広がるが、治療をしなければ半年以内に消える。3年を超えると第3期になると、皮膚や筋肉などに腫瘍ができ、鼻が欠けることもある。

10年以上の第4期では臓器にも腫瘍ができ、血管、脳、脊髄などが障害を受け、死亡する。

男性は性器ヘルペスや亀頭包皮炎と症状が似ていて、間違われることもある。女性は一般に外陰部や口(舌)の性的接触をした部位に潰瘍ができるが、何もせずに1カ月ほどで症状が消える。

3カ月を過ぎる第2期には、手のひら、足の裏、体に発疹(赤い斑点)が広がるが、治療をしなければ半年以内に消える。3年を超えると第3期になると、皮膚や筋肉などに腫瘍ができ、鼻が欠けることもある。

10年以上の第4期では臓器にも腫瘍ができ、血管、脳、脊髄などが障害を受け、死亡する。



池田詩子医師

#### 女性は気づきにくく

宮の森レディースクリニック(札幌市中央区)の池田詩子院長は「男性は陰茎に症状が出て気づきやすいが、女性は第1期では自覚症状があまりなく、第2期の発疹で受診される人が多い。じつは、調べてみたら梅毒だったことも多い」と話す。

診断は性器などの状態や問診(患者の行動を聞く)、血液検査で確定する。血液検査が出るまでには1週間かかり、治療はそれを踏まえて行われる。

■日本口腔インプラント学会学術大会の市民公開講座「食べる、話す、笑うこと、健康長寿の関係」

16日午後1時半〜2時半、京王プラザホテル札幌(札幌市中央区北5西7)の2階ロースルーム。講師は北大大学院歯学研究所の渡辺裕・准教授。入場無料。申し込み不要で当日直接会場へ。問い合わせ先は、学術大会運営事務局のメールjsoi2023@congre.co.jpへ。

■奈井江町健康フォーラム

16日午後1時15分、奈井江町文化ホール(空知管内奈井江町奈井江243)。北海道文化財団理事長の磯田憲一さんが「居場所を届けて 君の椅子という名の旅」と題し講演する。参加無料。申し込み不要で当日直接会場へ。定員180人。問い合わせ先は、奈井江町保健センターの電話0125・65・2131。